鎌倉の埋蔵文化財 28

Buried Cultural Properties in Kamakura 28

令和５年度発掘調査の概要

令和７年（2025）３月
鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家による政治をはじめた地として知られ、その地下には鎌倉時代の町なみをはじめとして、旧石器時代から江戸時代に至る人々の生活の痕跡が埋蔵文化財として残っています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などの土木工事により失われてしまうことも少なくありません。貴重な歴史的遺産が失われてしまうことにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このように、やむを得ず失われることとなる埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行等により、発掘調査の成果を紹介し、また、鎌倉歴史文化交流館等でも出土資料の展示を行っています。これからも、市民をはじめとする皆さまの歴史への理解が深まるよう、様々なかたちで発掘調査の成果を公開してまいりますので、文化財の保護に対するご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

～目　次～

1　大倉幕府北遺跡　（西御門二丁目815番１の一部）…… 1

2　若宮大路周辺遺跡群　（小町一丁目116番9,13,14）…… 4

3　名越ヶ谷遺跡　（大町三丁目2352番1, 7）…… 6

4　陣出遺跡　（寺分字上陣出393番11他）…… 8

5　大倉幕府周辺遺跡群出土の題箋軸木簡…… 11

英文要旨…… 12

～例　言～

1．本書は令和５年度に市内で実施された発掘調査の概要を中心に掲載しました。

2．本書は鎌倉市教育委員会文化財課が作成しました。

3．本書の作成にあたり株式会社博通、一般社団法人鎌倉・中世文化研究センター、株式会社イビソク、株式会社吉田生物研究所のご協力をいただきました。

4．『鎌倉の埋蔵文化財』シリーズ及び鎌倉市教育委員会が刊行した発掘調査報告書は、奈良文化財研究所データベース「全国遺跡報告総覧」で閲覧することができます。

《表紙写真》　大倉幕府北遺跡の遺物の一括出土状況です。建物の基礎又は土間あるいは通路と考えられる凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）が整然と敷き詰められた上に、大量のかわらけや中国産陶器壺がまとめて廃棄されていました。

1．大倉幕府北遺跡(西御門二丁目815番1の一部)

(おおくらばくふきたいせき)

Okura-Bakufu-Kita-Iseki Site

寺院跡発見か

調査地点は清泉小学校の北方約300m、東御門川によって開析された谷戸の西半に立地し、鎌倉時代中頃から室町時代頃の遺構群が発見されました。

鎌倉時代を通じて、谷戸内部の斜面地を削り、その土砂で低地を埋め立てて、ひな壇の平場を造成する大規模工事が行われていました。中でも凝灰質砂岩の切石(鎌倉石)を溝の側面に石垣として積んだり、敷き詰めて道路の路面として利用したり、造成工事にふんだんに利用しています。

通路や建物の基礎と考えられる切石敷きの上面にかわらけや陶器の壺が一括して廃棄された状況も発見されました。かわらけは饗宴に使用される食器であり、酒器等として、一度限りの使用で廃棄されます。かわらけと一緒に出土した陶器の壺は、中国から輸入された陶器壺で、褐釉がかけられ、壺の肩部に4つの突起(耳)が付けられた褐釉四耳壺と考えられます。おそらくはこの壺に酒を溜め、各人のかわらけに注いで、酒宴を楽しんだのでしょう。

写真1　凝灰質砂岩の切石が敷き詰められた遺構。通路か。

Fig. 1: Remains of hewn stone pavement made of tuffaceous sandstone; perhaps a passageway

大型の井戸と出土した提子（ひさげ）

注目される遺構は、鎌倉時代後期と考えられる生活面で発見された大型の井戸跡です。木組み材が良好な状態で残っており、鎌倉時代の井戸の構造がわかる貴重な発見例です。詳しく観察すると、井戸の立板の内側の上半分が焦げており、火災にあったことが分かります。その焦げ跡は、水平に一定線より上にしか認められないため、この線まで水が溜まっていたことが分かります。また井戸枠は熱を受けていないため、付け替えられたことが推定できます。つまり火災にあった井戸は、井戸枠のみが修理され、立板の一部はそのまま使い続けられたことが分かります。

この井戸跡の底からは、銅製の提子が出土しています。提子とは、小鍋状の容器に、持ち手である弦と注ぎ口を付けた容器で、酒を注ぐ容器として利用されていました。酒に酔った当時の人が水を一杯飲もうとして、井戸に落としたものでしょうか。それとも井戸の神に捧げるような、神事に関わるものでしょうか。想像すると楽しくなります。

この調査の第６面とされた生活面で、南北２ｍ以上、東西約３ｍの範囲で、鎌倉時代後期と考えられる瓦が、一面に敷かれた状況が発見されました。建物の基礎、あるいは土間のように利用されたと推測されています。鎌倉時代において瓦は、寺院の屋根に葺かれることが一般的でした。これだけ多くの瓦が出土したこと、また、鎌倉石を大量に使用して大規模に造成されていることを勘案すると、寺院の境内地であったか、近隣に寺院があったことが考えられます。

写真２　発見された井戸跡　井戸の立板が焼け焦げているのがわかる。
Fig. 2: Well site discovered/The standing board of the well is visibly scorched

写真３　提子の出土状況

Fig. 3: Excavation of *hisage* sake container

写真４　大量の瓦が敷き詰められていた

Fig. 4: Numerous roof tiles were laid down.

２．若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目116番９,13,14）

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

鎌倉時代のトイレの発見

調査地点はJR鎌倉駅の北方約150mにあり、今小路と若宮大路の二の鳥居を結ぶ東西道路の南面に位置します。調査では奈良時代と鎌倉時代の遺構群が発見されました。

鎌倉時代前期の遺構群では、200穴近い柱の穴が発見されており、建物が頻繁に建て替られていたことが窺えます。またトイレ跡と推定される直径1mを超える円形の穴も発見されています。穴の中には有機物が堆積しており、籌木と呼ばれる長さ10～20㎝、幅1㎝程度の木片が大量に出土しました。これは、おしりを拭くために当時用いられたものです。

鎌倉時代前期から中期の遺構群では、東西方向の断面Ｖ字形の溝が注目されます。この溝は調査区の北を走る、若宮大路と今小路をつなぐ現在の東西道路とほぼ並行するため、現在まで踏襲される鎌倉時代の東西道路の側溝であった可能性があります。溝の下層からは、籌木が大量に出土しているため、付近にはこの道路側溝に糞尿を流しだす、トイレがあったものと推測されます。またこの溝は、平安時代にさかのぼるとみられる断面逆台形の溝を壊して造られているため、より古くから東西道路が存在していた可能性があります。

鎌倉時代中期の遺構群では1.5×2.5mほどの不整形の浅い穴から、大量の木製品が出土しています。烏帽子・柄杓・板草履などがかわらけとともに集中的に出土しており、ゴミ捨て穴と想像されます。当時のゴミ穴は出土遺物の宝庫です。

写真５　発見されたトイレ遺構　中からは大量の籌木が出土している

Fig. 5: Toilet remains discovered/A large amount of *chugi* wood sticks was excavated from inside the toilet

写真６　発見された東西溝
Fig. 6: East-west ditch discovered

写真７　大量の遺物が出土した不整形な穴
Fig. 7: An irregularly shaped pit from which numerous artifacts were excavated

３．名越ヶ谷遺跡（大町三丁目2352番１，７）

Nagoegayatsu-Iseki Site

大町を通る東西道路と大地震の痕跡

鎌倉時代の大町には、大町大路という道が通っていました。現在の長谷から名越までの東西の道で現在の県道311号鎌倉葉山線に重なると考えられています。調査地点は名越ヶ谷の開口部にあたり、現状では平坦な地形になっています。県道311号線に近接する土地で、隣り合う２宅地でそれぞれ発掘調査が行われました。

2352番１地点では東西方向の溝の跡が見つかっています。溝は鎌倉時代初期に造られたもので、底には杭穴が並んでいました。溝の側面を支える側板があって、側板を止める杭を刺していた穴の可能性があります。溝は鎌倉時代中期に造り替えられて、室町時代まで使われていたようです。溝の全体像は分かりませんでしたが、大町大路の側溝かもしれません。周辺の調査成果の蓄積が待たれます。

2352番７地点でも同様に溝が見つかりましたが、残りはあまり良くありませんでした。こちらでは井戸が見つかっていて、井戸枠が良く残っていました。井戸枠の幅は約1.8mで比較的大型の井戸です。また、円形土坑の埋土の中から植物の種又は実が大量に出土しました。土の中に層状に堆積していて、２～３回に分けて埋められたと想定できます。植物の種類は現在、分析中です。

どちらの調査地点でも、噴砂痕が見つかっています。噴砂痕とは、地震による液状化現象の痕跡で、地中の水と一緒に砂が吹き上がった箇所が複数見つかりました。そのうち２か所は、吹き上がった砂が鎌倉時代より少し下の地層で止まっていました。このことは、鎌倉時代よりも前に大きな地震が起きて、噴砂が埋まって見えなくなった後に鎌倉時代の人が生活していたということです。平安時代に鎌倉が大きく揺れた地震は1096年の永長地震、1099年の康和地震があげられますが、今回の噴砂がいずれに当たるのか、未知の地震なのかは、今後の検討課題です。他にも、鎌倉時代の遺跡に入り込んでいる噴砂もあったので、鎌倉時代以降に起きた地震や、場合によっては関東大震災で噴砂が発生していた可能性もあります。このように、発掘調査では過去の災害痕跡が見つかることもあります。

写真８　2352番１で発見された東西溝

Fig. 8: East-west ditch discovered at 2352-1

写真９　噴砂の痕跡　明るい灰色の砂が逆三角形状に吹き上がっているのがわかる
Fig. 9: Traces of sand boil/This shows that light gray sand erupted in the shape of an inverted triangle

写真１０　調査区全景写真　手前の四角い穴が井戸
Fig. 10: Panoramic view of the survey area/The square hole in the foreground is a well

４．陣出遺跡（寺分字上陣出393番11他）

Jinde-Iseki Site

奈良・平安時代の集落跡

調査地点は、湘南モノレール江の島線湘南深沢駅の北西に広がる、かつて東日本旅客鉄道株式会社の大船工場が所在していた範囲の中になります。調査は、深沢地域土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として実施されました。

調査では、奈良・平安時代の住居跡４棟が発見されています。住居跡にはカマドが作られており、住居内で煮炊きが行われていたことが分かります。この住居跡の北側は岩盤となっており、近代に丘陵が大きく削られたものと推測されます。また遺跡は南に向かって傾斜して、低湿地となります。これらのことから、住居跡は丘陵の裾に位置し、南側に広がる湿地に面して建てられていたことが分かります。

奈良・平安時代の出土遺物は、土師器と須恵器が大半を占めます。中でも直径１mほどの穴から出土した須恵器の小壺は口縁部が欠けているものの、全体形が分かる資料として貴重です。また住居跡からは、当時の役所に出仕した人物が使用したものと想定される丸鞆(まるとも)が出土しています。奈良・平安時代の役人が儀式の際に着用した制服を朝服(ちょうふく)といい、その際に占めた帯（ベルト）には「か」という飾りがついており、金属製のものをか帯、石製のものを石帯と呼びます。丸鞆は石帯の内、かまぼこ型のものを指します。

奈良・平安時代の遺構のより下層からは、弥生土器がまとまって出土しています。明確な遺構は発見されていませんが、この地では弥生時代から土地利用があったことが窺われます。

写真11　奈良・平安時代の遺構面全景写真

Fig. 11: Panoramic view of ancient foundation from the Nara and Heian periods

写真 12　奈良・平安時代の竪穴住居跡

Fig. 12: Pit dwelling sites from the Nara and Heian periods

写真 13　弥生土器の出土状況

Fig, 13: Excavation of Yayoi pottery

写真 14　奈良・平安時代の土師器と須恵器

Fig. 14: *Hajiki* and *Sueki* earthenware from the Nara and Heian periods

写真 15　弥生土器

Fig. 15: Yayoi pottery

写真 16　丸鞆の出土状況

Fig. 16: Excavation of a *marutomo* sash

写真 17　須恵器坏と長頸瓶の出土状況

Fig. 17: Excavation of *Sueki* earthenware bowls and a long-necked vase

5．大倉幕府周辺遺跡群出土の題箋軸木簡

Wooden Message with a Title Scroll Excavated from the Okura-Bakufu-Shuhen-Isekigun Site

令和 2 年度から令和 5 年度まで実施された大倉幕府周辺遺跡群（横浜国立大学教育学部附属鎌倉小中学校地内）の発掘調査では、鎌倉時代前期の大倉御所の西端と推定される柵や門の痕跡、西大路とみられる道路跡が発見されています。これらの遺構と同一層位から、建保三年の紀年銘を有する「題箋軸」が出土していたことが、資料の精査により分かりました。

「題箋軸」とは巻物の軸頭を札状に作り出した、現代のインデックスにあたるもののことです。ここに年号や文書名等を記し、巻物を開かずに内容を把握することができるようになっています。今回出土した題箋軸には、片面に「建保三年」、もう片面には「官物」「御返抄」とみられる文字が墨で記されていました。大きさは縦5.6㎝、幅2.4㎝、厚さは0.35㎝で、上部は山形に成形されています。下端部中央に欠損があり、ここに軸部があったものと推定されます。

「建保三年」は西暦1215年で、大倉御所が存在していた時期と重なります。また、鎌倉市内の出土紀年銘資料としては、鎌倉時代で最古の年号が記された例であり、とても貴重です。

「官物」は、租庸調の税や年貢等の貢納物を指すものと考えられ、「御返抄」はその貢納物に対する受領書と考えられます。この題箋軸は、一つの可能性として、地方から鎌倉の屋敷に貢納品が納められ、その受領書の写しを巻物として保管した際に付けられたものと考えられます。公の機関が廃棄したものか、あるいは私的な家政機関に保管されていた文書を廃棄したものか、詳細は分かりませんが、地方と鎌倉の物資のやり取りや、その手続きを表す資料である可能性があります。

写真 18　題箋軸木簡の赤外線写真

Fig. 18: Infrared photograph of a wooden message with a title scroll

Buried Cultural Properties in Kamakura 28

1 . Okura-Bakufu-Kita-Iseki Site

This survey site is located approximately 300 m north of Seisen Elementary School in the western half of the valley bisected by the Higashimikado River. There, remains dating from around the mid-Kamakura to Muromachi periods were discovered.

Throughout the Kamakura period, large-scale construction work was carried out to form flat terrain for tiered platforms by cutting into the slopes inside the valley and filling in the lowlands with the resulting earth and sand. Among them, hewn stones of tuffaceous sandstone, called *Kamakura-ishi*, were abundantly used in land development work, such as by piling them to make stone walls on the sides of ditches or by laying them out to pave roads.

Also discovered was the discarding of *kawarake* unglazed earthenware and ceramic jars in bulk atop hewn stone pavement believed to be the foundation of a passageway or building. *Kawarake* is tableware used for feasting, and is discarded after a single use as a drinking vessel or the like. The ceramic jars excavated together with the *kawarake* were imported from China, and sported brown glaze as well as four protrusions (ears) on their shoulder, likely making them *Katsuyushijiko* (jar with four lugs and comma shapes). They were probably used to store sake that was poured in each person's *kawarake* and enjoyed at feasts.

Notable remains are those of a large well discovered as part of the living environment. This is thought to date to the late Kamakura period. With its well-preserved wooden framework material, the well is a valuable example of a discovery that illustrates the structure of wells from the Kamakura period. A detailed examination reveals that the upper half of the inside of the well's standing board was scorched, indicating that it had been on fire. The scorch marks can only be found above a certain horizontal line, which suggests the well was filled with water up to that line. Additionally, since the well frame was not exposed to heat, one could infer that it was replaced. In other words, this shows that after the well caught fire, only the well frame was repaired, and a portion of the standing plate remained in use.

A copper *hisage* was excavated from the bottom of this well site. A *hisage* is a small pot-shaped container with a bail handle and a spout, and was used as a vessel for pouring sake. Perhaps this particular one was dropped into the well by someone inebriated from that time as they attempted to drink a cup of water. That, or perhaps it was something related to a ritual that involved making an offering to the god of the well. It is fun to entertain such possibilities.

In the living environment, established as the sixth aspect of this survey, conditions were found where tiles thought to be from the late Kamakura period were laid all over an area that measured over 2 m from north to south and roughly 3 m from east to west. It is presumed that the tiles were used as the foundation of a building or as an earthen floor. In the Kamakura period, it was typical for temples to be rooved with tile. Considering that such a large quantity of tiles was excavated and the site was constructed on a large scale using an abundance of *Kamakura-ishi* stone, one might conclude that the site was on temple grounds or that there was a temple in the nearby area.

2 . Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

This survey site is located about 150 m north of JR Kamakura Station on the south face of the east-west road that connects Imakoji Street and the second *torii* gate on Wakamiya Oji Street. Remains from the Nara and Kamakura periods were discovered in the survey.

In the remains from the early Kamakura period, nearly 200 holes for pillars were found, suggesting that buildings were frequently rebuilt. Additionally, a circular hole with a diameter of over 1 m, presumed to be where a toilet once was, was discovered. Organic matter was deposited in the hole, from which wood sticks roughly 10-20 cm in length and 1 cm in width, called *chugi*, were excavated. Chugi were used at the time to wipe one's bottom.

Among the remains dating from the early to mid-Kamakura period, a ditch running east-west with a V-shaped cross-section is worthy of note. This east-west ditch is nearly parallel to the existing east-west road that connects Imakoji Steet, which runs north of the survey site, and Wakamiya Oji Street. As such, it may have been a side ditch on an east-west road from the Kamakura period that continues to be followed to the present. As a large number of *chugi* wood sticks was excavated from the lower strata of the ditch, a toilet that discharged excreta into the roadside ditch is presumed to have been located nearby. This ditch was constructed by breaking up an inverted trapezoidal ditch that is believed to date back to the Heian period, suggesting that an east-west road may have been present from an even earlier time.

In the remains from the mid-Kamakura period, numerous wooden products were excavated from a shallow, irregularly shaped pit measuring roughly 1.5 by 2.5 m. Items such as *eboshi* headgear, ladles, and wooden clogs, along with *karawake* unglazed earthenware, were excavated in large quantities, suggesting that the pit was for dumping purposes. The dumping pits from that time are a treasure trove of excavated artifacts.

3 . Nagoegayatsu-Iseki Site

Omachi in the Kamakura period had a road going through it called Omachi Oji, which is believed to have run east-west from present-day Hase to Nagoe . This survey site is located at the opening of the Nagoegayatsu Valley, where the terrain is currently flat. The land there is adjacent to Prefectural Road 311, or the Kamakura-Hayama Route. Excavation surveys were respectively conducted on two adjacent housing lots. It is believed that Omachi Oji Road ran right in the vicinity of Prefectural Route 311.

At the 2352-1 site, the remains of a ditch that ran east-west were found. Built in the early Kamakura period, the ditch had a row of stake holes

lining its bottom. It is possible there were side panels supporting the sides of the ditch, which were held in place by stakes inserted in the holes. The ditch would appear to have been rebuilt in the mid-Kamakura period and used until the Muromachi period. While it was not possible to form an image of the entire ditch, it is possibly a side ditch along Omachi Oji Road. A future accumulation of survey results from the surrounding area will reveal more.

A ditch was found at the 2352-7 site as well. However, its remains were in a less favorable condition. Here, a well was discovered with a well-preserved frame. The width of the frame was roughly 1.8 m, making the well a relatively large one. Additionally, plant seeds or fruits were excavated in large quantities from the soil buried in a circular earthen pit. As they were deposited in layers in the soil, it can be assumed that they were buried two or three separate times. The type of plants is currently undergoing analysis.

Sand boil marks were discovered at both survey sites. These are traces of liquefaction caused by earthquakes. Multiple traces of sand that erupted together with underground water were found. In two of the sites, the sand that erupted stopped at strata slightly below that from the Kamakura period. This means that after a large earthquake occurred prior the Kamakura period, and the erupted sand was buried and obscured, people from the Kamakura period lived there. The Eicho Earthquake of 1096 and the Kowa Earthquake of 1099 are cited as having shook Kamakura considerably during the Heian period. However, whether the sand boils are correlated with these earthquakes or an unknown one is a question for further study. Because there were also other sand boils that entered ruins from the Kamakura period, it is possible that the sand boils were caused by earthquakes that occurred in the Middle Ages or, in some cases, by the Great Kanto Earthquake. As this illustrates, excavation surveys sometimes reveal traces of past disasters.

4 . Jinde-Iseki Site

The survey site is located within an area spreading out northwest of Shonan Fukasawa Station on the Shonan Monorail Enoshima Line where the Ofuna Plant of East Japan Railway Company previously stood. The survey was carried out as an emergency excavation survey alongside the Fukasawa Area Land Readjustment Project.

During the survey, four dwelling sites dating from the Nara and Heian periods were discovered. The sites had *kamado* cooking stoves built in them, indicating that cooking took place inside the dwellings. On the northern side of the dwelling sites is a bedrock, which suggests the hillside was heavily cut down in the modern age. Additionally, the ruins slope toward the south to form low-lying wetlands. These traits show that the dwelling sites were located at the foot of the hill and were erected facing the low wetlands that spread out to the south.

The majority of artifacts from the Nara and Heian periods that were excavated consisted of *Hajiki* and *Sueki* earthenware. One article of *Sueki* earthenware dug up from a pit about 1 m in diameter is a long-necked vase whose entire shape is evident despite missing its mouth rim, and constitutes a valuable artifact. Also excavated from the dwelling sites is a *marutomo* sash. The uniforms worn by officials during ceremonies in the Nara and Heian periods were called *chofuku*. The belts they wore on those occasions sported an ornament called a *ka*. Belts made of metal were called *Katai*, and those made with stone were called *Sekitai*. *Marutomo* refers to the semicylindrically-shaped of a *Sekitai*. It is assumed this particular sample was used by someone who served in a government office at that time.

Yayoi pottery has been excavated in large amounts from the lower strata of the ruins from the Nara and Heian periods. While no definite remains have been found, one can surmise that land at this site was in use since the Yayoi period.

5 . Wooden Message with a Title Scroll Excavated from the Okura-Bakufu-Shuhen-Isekigun Site

Excavation surveys conducted from 2020 to 2023 in the ruins surrounding the Okura Shogunate (within the grounds of Kamakura Elementary School & Junior High School Attached to Yokohama National University Faculty of Education) revealed traces of a fence and gate presumed to be the western edge of the Okura Palace from the early Kamakura period. Also found were the remains of a street believed to have been Nishioji. A close examination of the artifacts revealed that a “title scroll” with an inscription of a date, “3rd year of Kempo period,” was excavated from the same strata as these remains.

A title scroll is a contraption similar to a modern index that is made by shaping the scroll roller head like a tag. Written on it are the year, the name of the document, and other information, making it possible to grasp the contents of the scroll without opening it. This particular title scroll had “3rd year of the Kempo period,” written on one side and *kanmotsu* (taxes and fees) and *gohensho* (receipt) written on the other side in black ink. It measured 5.6 cm in length, 2.4 cm in width, and 0.35 cm in thickness, and the upper part was molded in the shape of a mountain. The center of the bottom edge has a missing part where the roller part is presumed to have been located.

The “3rd year of the Kempo period” translates into 1215 A.D., which coincides with the time when the Okura Palace existed. This title scroll is also valuable as the artifact containing the inscription with the oldest date in the Kamakura period among the excavated chronological materials in Kamakura.

Kanmotsu is thought to refer to tribute payments such as corvees and annual tribute, with *gohensho* believed to be a receipt for those payments. One possibility is that this title scroll is a copy of the receipt for tribute paid from the provinces to the Kamakura residence, kept in the form of a scroll. While the details of whether the document was discarded by a public institution or discarded after being stored at a private domestic institution are unknown, it is conceivable that the artifact represents the exchange of goods between the provinces and Kamakura as well as the procedures involved.

本書掲載の調査地点

掲載遺跡名称及び所在地一覧（国土地理院地図を基に作成）

1　大倉幕府北遺跡（西御門二丁目 815 番 1 の一部）

2　若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目 116 番 9,13,14）

3　名越ヶ谷遺跡（大町三丁目 2352 番 1,7）

4　陣出遺跡（寺分字上陣出 393 番 11 他）

5　大倉幕府周辺遺跡群（横浜国立大学教育学部附属鎌倉小中学校地内）

鎌倉の埋蔵文化財 28

発　行　日　　令和7年（2025年）3月28日
編集・発行　　鎌倉市教育委員会　文化財課

〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
電話：0467-61-3857　FAX：0467-23-1085
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp

印　　刷　　株式会社ポートサイド印刷